

「充実した三年間」 利尻町立利尻中学校3年 柴田 花音

3年前の四月、中学校に入学した。そして今、卒業するまで残り数か月となった。振り返ると、今まで沢山の人に支えてもらい、充実した三年間を送れた。

小学校を卒業し、新しく始まる中学校生活に胸を弾ませていたのは自分一人ではないはずだ。中学校には小学校の時にはなかった部活動や定期テストなどが始まる。更に、中学校は小学校の時に比べ上下関係というものも厳しくなる。その中で、部活動や行事において、協力しながら成功や目標達成を目指す。自分が1年生の頃は先輩ばかりの中で、失敗したらどうしよう。そんな心配ばかりしていた。でも、今の自分は部活動や勉強においても全くそんなことはない。むしろ沢山経験して沢山失敗しようと思えるほどだ。それはなぜだろうか。それは、そういった環境を部活動で苦楽を共にした、先輩方や熱いご指導をしていただいた方達が作ってくれたからだ。自分が後輩という立場であった2年間。その2年間で関わった先輩方は、自分がまだ不安や心配という気持ちが入り混じる中、沢山話しかけてくれたり、沢山教えてもらった。そうしている内に部内の雰囲気にも馴染み、失敗してもカバーしてくれる人がいる、そんな気持ちが芽生え、のびのびとプレーできるようになった。目標を達成した時は嬉しかったし、限界までこのチームで頑張りたいと思った。ただ、時間はあっという間に過ぎてしまった様な気がする。素敵な先輩方から沢山のことを教わった自分は、ついこの間の試合でキャプテンという仕事を終えた。だからだろうか、3年生になった自分は後輩と同じコートに立つ時、「失敗は恐れなくていい！むしろ失敗しよう」と声をかける。合宿や遠征、日頃の練習から沢山の事を学んだ自分は目標であった先輩になれた気がする。

理由は他にもある。それは同級生の存在だ。ほとんどが保育所からの仲だ。だから得意・不得意な事などある程度のことは知っている。そんな皆とも三月で別々になる。正直にそれはすごく寂しい。この3年間、13人全員で喜怒哀楽、すべて共にしてきた。そんな自分達のクラスは、行事期間に入った時の一致団結感はどこにも負けない自信がある。それぐらい凄い。例え行事期間ではなくとも日常には笑顔が溢れていて、教室から沢山の笑い声が聞こえる。この13人だったからこそ、充実しすぎた3年間を送れた。

沢山の経験があって今の自分がある。そんな自分は四月から高校生になる。高校は小学校とも中学校とも違い、一歩大人に近づく。高校では常に感謝を忘れず何事も挑戦していこうと思う。充実した3年間。関わってくれた、支えてくれた人達をあげると、きりが無いほど感謝したい人は沢山いる。ここで改めて言わせてもらいたい。

ありがとう